

**製品名: カゼインキナーゼ II $\beta$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07941**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	25kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CSNK2B
別名	CSNK2B; CK2N; G5A; Casein kinase II subunit beta; CK II beta; Phosvitin; Protein G5a
遺伝子 ID	1460.0
SwissProt ID	P67870
免疫原	抗血清はヒト CKII- $\beta$ 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 166-215

**背景**

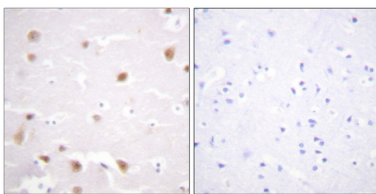
この遺伝子は、代謝経路、シグナル伝達、転写、翻訳、複製を制御する普遍的なプロテインキナーゼであるカゼインキナーゼ II の  $\beta$  サブユニットをコードします。この酵素は、 $\alpha$ 、 $\alpha$ プライム、 $\beta$  の 3 つのサブユニットから構成され、四量体ホロ酵素を形成しま

す。αおよびαプライムサブユニットは触媒機能を有し、βサブユニットは制御機能を担います。この酵素は小胞体およびゴルジ体に局在します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2013年9月]、機能: Wntシグナル伝達に関与(類似性による)。αサブユニットの基礎触媒活性を制御する複雑な役割を果たします。PTM:N-グリコシル化されています。PTM:αサブユニットによってリン酸化されています。類似性:カゼインキナーゼ2サブユニットβファミリーに属します。類似性:1つのUPAR/Ly6ドメインを含みます。サブユニット:オリゴマーを形成します。サブユニット:αサブユニット、α'サブユニット、および2つのβサブユニットからなる四量体。CTEX1D3と相互作用します(類似性による)。CD163と相互作用します。また、SSRP1、SUPT16H、CSNK2A1、CSNK2A2、およびCSNK2BからなるCK2-SPT16-SSRP1複合体の構成要素でもあり、この複合体は紫外線照射後に会合します。、

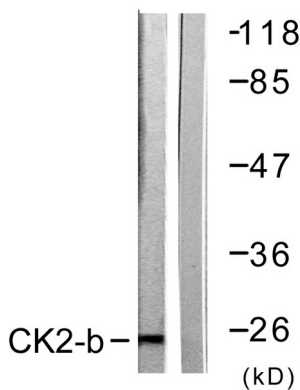
## 研究分野

WNT;WNT-T 細胞接着接合部;接着接合部;

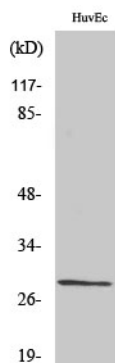
## 画像データ



CKII-β抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CKII-beta抗体を用いたHUVEC細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



カゼインキナーゼIIβポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析